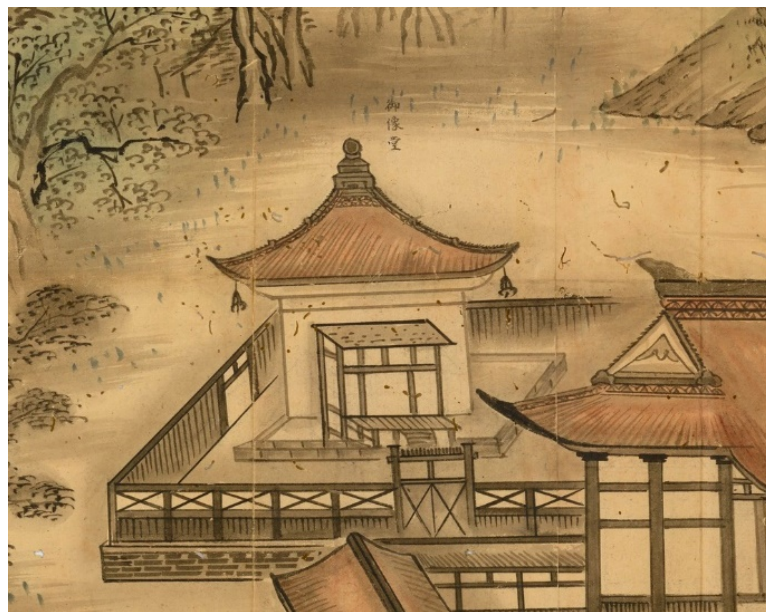


秀康木像との別れを惜しんだ松平忠直

「国事叢記」によれば、1623年（元和9）に松平忠直が豊後に赴く途中、孝顕寺住持が同寺に安置されていた結城秀康木像のお供をして敦賀まで赴き、敦賀永賞寺で忠直がこれを迎え、父結城秀康の法要を行ったとされます。忠直は「甚だ御別惜」であったと「国事叢記」は伝えており、また法要後に結城秀康木像は孝顕寺住持がお供をして孝顕寺に戻ったといえます。

この結城秀康木像は、忠直が京都の仏工を召して造らせたものとされ、孝顕寺本堂の後方にあった「御像堂」（下写真）に安置されていたものとみられますが、御像堂などとともに1945年（昭和20）に焼失しました。



松平文庫「孝顕寺類焼以前図」（A0143-21467）御像堂部分